



## 2026年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月12日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東  
コード番号 3660 URL <https://www.istyle.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役会長CEO（氏名） 吉松 徹郎  
問合せ先責任者（役職名） 取締役副会長CFO（氏名） 菅原 敬（TEL）03(6161)3660  
半期報告書提出予定日 2026年2月12日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満四捨五入）

## 1. 2026年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年7月1日～2025年12月31日）

## （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期中間期	40,089	21.2	1,839	23.0	1,868	17.7	1,211	10.1
2025年6月期中間期	33,072	22.0	1,495	75.8	1,588	96.4	1,100	128.5

（注）包括利益 2026年6月期中間期 1,335百万円（43.7%） 2025年6月期中間期 929百万円（90.3%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期中間期	12.60	9.83
2025年6月期中間期	13.97	9.39

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期中間期	40,648	21,773	50.9
2025年6月期	34,601	17,007	46.0

（参考）自己資本 2026年6月期中間期 20,672百万円 2025年6月期 15,900百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	1.00	1.00
2026年6月期	—	0.00			
2026年6月期（予想）			—	1.00	1.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	83,000	20.7	3,800	20.1	3,800	14.8	2,650	13.9

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 —社（社名）— 、除外 —社（社名）—

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年6月期中間期	102,496,967株	2025年6月期	91,754,577株
② 期末自己株式数	2026年6月期中間期	2,632,769株	2025年6月期	2,693,618株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年6月期中間期	96,164,713株	2025年6月期中間期	78,769,979株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。なお、連結業績予想の1株当たり当期純利益は2026年1月末までの新株予約権の行使による影響を加味して計算しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは、2024年8月に発表しました中期事業方針に基づき、リテール事業(EC・店舗)の拡大を通じてユーザーとの接点やデータを増やし、それらをマーケティング支援事業(BtoBサービス)でマネタイズすることで、中期事業目標である連結売上高1,000億円、連結営業利益80億円の達成を目指しております。

2026年6月期は中期事業方針の2年目にあたり、次の成長フェーズへの飛躍に向けた「戦略的投資の年」と位置づけています。

将来的な営業利益の源泉となる売上高は、国内事業の全体的なオーガニック成長に加え、グローバル事業における香港旗艦店「@cosme HONG KONG」(2025年12月5日オープン)によって拡大を図ってまいります。

そして中長期成長に向け、各セグメントでの人材採用やシステム投資等の強化に加え、新規事業等への投資を拡大いたします。マーケティング支援事業では、我々が保有する独自データを活用したデータコンサルティングを新たな収益の柱とすべく、コンサルタントの採用に注力いたします。

当連結会計年度の営業利益は前年同期比20.1%増を計画しておりますが、営業利益率は前述の先行投資に伴い前期と同水準となる見通しです。本年度は来期以降の成長に向けた助走期間と位置づけ、戦略的な事業基盤の強化と将来成長を見据えた投資拡大により、中長期的な企業価値向上を目指します。

当中間連結会計期間における連結業績は以下の通りです。

売上高におきましては、国内で展開しているマーケティング支援事業及びリテール事業が業績を牽引し、前年同期比21.2%の増収となりました。

営業利益におきましては、香港旗艦店のオープン前費用や今期初開催の大型イベント「Tokyo Beauty Week」の費用を計上したものの、売上高と同様にマーケティング支援事業及びリテール事業が増益に寄与し、23.0%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	40,089百万円(前年同期)	33,072百万円 / 前年同期比	21.2%増
営業利益	1,839百万円(前年同期)	1,495百万円 / 前年同期比	23.0%増
経常利益	1,868百万円(前年同期)	1,588百万円 / 前年同期比	17.7%増
税金等調整前中間純利益	1,868百万円(前年同期)	1,584百万円 / 前年同期比	17.9%増
親会社株主に帰属する中間純利益	1,211百万円(前年同期)	1,100百万円 / 前年同期比	10.1%増

#### ① マーケティング支援事業

当セグメントには、当社が運営するコスメ・美容の総合サイト「@cosme(アットコスメ)」を基盤とした、化粧品ブランド向けの広告ソリューションやデータドリブンソリューションが属しております。

売上高におきましては、リテール事業の売上規模拡大に伴うECと店舗を活用した販売促進施策の好調などを背景に、大手および新たな中堅ブランドとの取引規模が増加したことに加え、大型イベント「Tokyo Beauty Week」の売上高を計上し前年同期比28.9%の増収となりました。

営業利益におきましては、前述の「Tokyo Beauty Week」の費用を計上したものの、限界利益率の高い事業モデルが効率的な利益拡大につながり、前年同期比24.4%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	6,048百万円(前年同期)	4,691百万円 / 前年同期比	28.9%増
営業利益	1,769百万円(前年同期)	1,423百万円 / 前年同期比	24.4%増

#### ② リテール事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme SHOPPING(アットコスメショッピング)」、化粧品専門店「@cosme STORE(アットコスメストア)」等の国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

売上高におきまして、ECでは、引き続きプラットフォーム連携による新規顧客の獲得や、12月の販売イベント「@cosme BEAUTY DAY」の成功により、前年同期比24.1%の増収となりました。店舗では、「@cosme NAGOYA」等の新店

寄与に加え、既存店の成長により前年同期比18.9%の増収となりました。結果として、セグメント全体では前年同期比20.7%の増収にて着地しました。

営業利益におきましては、前述の販売イベントに伴うプロモーション費用の計上があったものの、増収寄与により27.6%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	30,826百万円(前年同期 25,533百万円 / 前年同期比 20.7%増)
営業利益	1,664百万円(前年同期 1,304百万円 / 前年同期比 27.6%増)

### ③ グローバル事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

売上高におきましては、中国越境ECが復調したことに加え、香港旗艦店のオープンによる約1か月の売上高貢献によりセグメント全体で前年同期比18.3%の増収となりました。

営業利益におきましては、香港旗艦店のオープン関連費用251百万円を計上したことにより、前年同期比で赤字幅は拡大となりましたが、前述の費用を除くと営業利益は3百万円となり黒字に転換しております。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	2,431百万円(前年同期 2,056百万円 / 前年同期比 18.3%増)
営業損失(△)	△248百万円(前年同期 △23百万円)

### ④ その他事業

当セグメントには、美容部員を派遣する人材派遣事業と、ユーザー向けのBtoC課金サービス、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

売上高におきましては、BtoC課金サービスの1つである「BLOOMBOX」が前期の2024年12月で終了した影響を受け、前年同期比1.0%の減収となりました。

営業利益におきましては、前述の通り前期の「BLOOMBOX」の終了に加え、2025年7月にローンチしたサプリメント事業の先行費用により、前年同期比63.2%の減益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	784百万円(前年同期 792百万円 / 前年同期比 1.0%減)
営業利益	47百万円(前年同期 127百万円 / 前年同期比 63.2%減)

## （２）当中間期の財政状態の概況

### ① 資産の部

当中間連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ6,047百万円増加し、40,648百万円となりました。

当中間連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ4,980百万円増加し、26,021百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,940百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が1,307百万円、商品が1,604百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,067百万円増加し、14,627百万円となりました。これは主に、有形固定資産が678百万円、ソフトウェアが638百万円増加したこと等によるものであります。

### ② 負債の部

当中間連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ1,281百万円増加し、18,875百万円となりました。

当中間連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ916百万円増加し、13,608百万円となりました。これは主に、１年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債が1,500百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が1,749百万円、１年内返済予定の長期借入金が401百万円、未払法人税等が129百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ365百万円増加し、5,268百万円となりました。これは主に、長期借入金が171百万円増加したこと等によるものであります。

### ③ 純資産の部

当中間連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ4,766百万円増加し、21,773百万円となりました。これは主に、資本金が1,764百万円、資本剰余金が1,765百万円、利益剰余金が1,122百万円増加したこと等によるものであります。

## （３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期通期の連結業績予想につきましては、2025年8月12日の決算短信で公表いたしました内容から変更ありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,224	9,164
受取手形、売掛金及び契約資産	5,535	6,842
商品	6,415	8,019
営業投資有価証券	964	1,034
その他	913	971
貸倒引当金	△11	△9
流動資産合計	21,041	26,021
固定資産		
有形固定資産	3,589	4,267
無形固定資産		
のれん	937	879
ソフトウェア	1,912	2,550
その他	781	574
無形固定資産合計	3,630	4,003
投資その他の資産		
投資有価証券	3,511	3,425
敷金及び保証金	1,907	1,960
その他	925	973
投資その他の資産合計	6,342	6,358
固定資産合計	13,560	14,627
資産合計	34,601	40,648

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,409	5,159
短期借入金	1,000	900
1年内返済予定の長期借入金	1,198	1,599
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	1,500	—
未払法人税等	626	755
賞与引当金	453	531
その他	4,505	4,664
流動負債合計	12,692	13,608
固定負債		
長期借入金	3,857	4,028
その他	1,045	1,239
固定負債合計	4,902	5,268
負債合計	17,594	18,875
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,179	8,944
資本剰余金	2,314	4,079
利益剰余金	5,645	6,767
自己株式	△280	△273
株主資本合計	14,858	19,516
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△67	△73
為替換算調整勘定	1,109	1,229
その他の包括利益累計額合計	1,043	1,156
新株予約権	955	969
非支配株主持分	151	131
純資産合計	17,007	21,773
負債純資産合計	34,601	40,648



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	33,072	40,089
売上原価	18,759	23,260
売上総利益	14,312	16,829
販売費及び一般管理費	12,817	14,990
営業利益	1,495	1,839
営業外収益		
受取利息	3	8
受取配当金	3	3
為替差益	12	25
持分法による投資利益	70	27
投資事業組合運用益	3	0
その他	30	26
営業外収益合計	122	90
営業外費用		
支払利息	27	35
株式交付費	—	23
投資事業組合運用損	1	0
その他	1	3
営業外費用合計	30	60
経常利益	1,588	1,868
特別利益		
新株予約権戻入益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	3	1
特別損失合計	3	1
税金等調整前中間純利益	1,584	1,868
法人税等	475	647
中間純利益	1,109	1,221
非支配株主に帰属する中間純利益	9	9
親会社株主に帰属する中間純利益	1,100	1,211

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
中間純利益	1,109	1,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	25
持分法適用会社に対する持分相当額	△29	△32
為替換算調整勘定	△110	120
その他の包括利益合計	△181	114
中間包括利益	929	1,335
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	923	1,325
非支配株主に係る中間包括利益	6	10

（3）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前中間連結会計期間（自 2024年7月1日 至 2024年12月31日）

当社は、2024年8月20日開催の取締役会の決議により、同日付で会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を2,811百万円減少させ、同額をその他資本剰余金に振り替えております。また、同日付で会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を2,811百万円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

この欠損填補等により、当中間連結会計期間末において資本剰余金が853百万円、利益剰余金が4,418百万円となっております。

当中間連結会計期間（自 2025年7月1日 至 2025年12月31日）

当中間連結会計期間に第9回及び第26回新株予約権の権利行使が行われ、資本金及び資本剰余金が1,014百万円増加しております。また、当中間連結会計期間に第2回無担保転換社債型新株予約権付社債の転換権行使が行われ、資本金及び資本剰余金が750百万円増加しております。

この結果、当中間連結会計期間末において資本金が8,944百万円、資本剰余金が4,079百万円となっております。

## (セグメント情報)

前中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 事業 (注) 1 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注) 2 (百万円)	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 (百万円)
	マーケ ティング支 援事業 (百万円)	リテール 事業 (百万円)	グローバル 事業 (百万円)	計				
売上高								
一時点で移転される財 又はサービス	—	25,533	1,616	27,149	—	27,149	—	27,149
一定の期間にわたり 移転される財又はサー ビス	4,691	—	440	5,130	792	5,923	—	5,923
顧客との契約から生じる 収益	4,691	25,533	2,056	32,279	792	33,072	—	33,072
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,691	25,533	2,056	32,279	792	33,072	—	33,072
セグメント間の内部 売上高又は振替高	820	56	—	876	20	896	△896	—
計	5,511	25,589	2,056	33,155	812	33,967	△896	33,072
セグメント利益又は損失 (△)	1,423	1,304	△23	2,703	127	2,829	△1,334	1,495

(注) 1. 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、BtoC課金サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,334百万円は、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,334百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 事業 (注) 1 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注) 2 (百万円)	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 (百万円)
	マーケ ティング支 援事業 (百万円)	リテール 事業 (百万円)	グローバル 事業 (百万円)	計				
売上高								
一時点で移転される財 又はサービス	—	30,826	1,916	32,742	11	32,752	—	32,752
一定の期間にわたり 移転される財又はサー ビス	6,048	—	515	6,563	741	7,304	—	7,304
顧客との契約から生じる 収益	6,048	30,826	2,431	39,305	752	40,057	—	40,057
その他の収益	—	—	—	—	32	32	—	32
外部顧客への売上高	6,048	30,826	2,431	39,305	784	40,089	—	40,089
セグメント間の内部 売上高又は振替高	966	202	18	1,187	33	1,219	△1,219	—
計	7,014	31,028	2,449	40,491	817	41,308	△1,219	40,089
セグメント利益又は損失 (△)	1,769	1,664	△248	3,185	47	3,231	△1,393	1,839

(注) 1. 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、BtoC課金サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,393百万円は、セグメント間取引消去△0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,392百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。